

東京藝術大学放射線量測定結果

○ 上野キャンパス

単位：マイクロシーベルト(μSv)／時間

測定日時		天候	美術学部 絵画棟前	美術館 入 口	美術学部 学生食堂前	事務局 管理棟前	音楽学部 奏楽堂前	附属高校 正 門	備 考
平成27年1月9日	6:40	晴	0.09 μSv	0.07 μSv	0.08 μSv	0.06 μSv	0.06 μSv	0.07 μSv	風(強)
平成26年12月19日	6:45	晴	0.10 μSv	0.07 μSv	0.08 μSv	0.06 μSv	0.06 μSv	0.07 μSv	
平成26年12月5日	6:40	曇	0.09 μSv	0.07 μSv	0.08 μSv	0.06 μSv	0.06 μSv	0.08 μSv	
平成26年11月21日	6:45	晴	0.10 μSv	0.08 μSv	0.08 μSv	0.06 μSv	0.07 μSv	0.07 μSv	
平成26年11月7日	6:40	晴	0.10 μSv	0.08 μSv	0.08 μSv	0.06 μSv	0.06 μSv	0.08 μSv	
平成26年10月31日	6:40	薄曇	0.10 μSv	0.07 μSv	0.09 μSv	0.06 μSv	0.06 μSv	0.08 μSv	
平成26年10月17日	6:40	晴	0.11 μSv	0.07 μSv	0.09 μSv	0.06 μSv	0.06 μSv	0.08 μSv	
平成26年10月3日	6:45	晴	0.10 μSv	0.07 μSv	0.08 μSv	0.06 μSv	0.06 μSv	0.08 μSv	

◎ 上野・取手両キャンパスとも、測定以来、安全の目安となる0.312μSv/h(※を参考)を下回る数値を示している。

○ 取手キャンパス

単位：マイクロシーベルト(μSv)／時間

測定日時		天候	専門教育棟と メディア教育棟の間		学バス停留所 (乗車口)		陶芸窯場		グラウンド (サッカーコート)		その他(☆)		
			1 m	5 cm	1 m	5 cm	1 m	5 cm	1 m	5 cm	測定 箇所	1 m	5 cm
平成27年1月6日	9:15	曇	0.14	0.17	0.12	0.13	0.12	0.15	0.13	0.17	e	0.09	0.10
平成26年12月16日	8:30	曇	0.14	0.17	0.13	0.14	0.11	0.13	0.13	0.15	d	0.12	0.13
平成26年12月2日	8:30	晴	0.14	0.18	0.14	0.14	0.12	0.15	0.12	0.15	c	0.08	0.08
平成26年11月18日	8:20	晴	0.15	0.18	0.13	0.13	0.11	0.12	0.13	0.14	b	0.12	0.11
平成26年11月4日	8:15	晴	0.14	0.17	0.13	0.14	0.12	0.13	0.14	0.16	a	0.09	0.09
平成26年10月21日	8:15	小雨	0.14	0.16	0.13	0.14	0.11	0.13	0.13	0.16	f	0.12	0.12
平成26年10月7日	8:15	曇	0.14	0.17	0.13	0.14	0.12	0.12	0.13	0.16	e	0.09	0.11
平成26年9月30日	8:15	晴	0.14	0.17	0.14	0.13	0.11	0.11	0.14	0.16	d	0.12	0.13

☆ 4カ所以外に、毎回場所を変えて1カ所掲載(a. 共通工房1Fアーケード下、b. 利根川荘と食堂の間の通路、c. 大学美術館取手館入口
d. メディア教育棟1F工作室外部) 平成23年12月26日から2ヶ所追加(e. 共通工房棟北側：彫刻基礎実習室外部、f. ゴミ集積場)

- 測定方法：上野(地表面から1mの地点で、90秒間3回測定)
：取手(地表面から1m及び5cmの地点で、それぞれ90秒間づつ3回測定)
- 測定時期：上野(概ね2週間間隔で測定)
：取手(概ね2週間間隔で測定)
- 測定機器：日立アロカメディカル製 エネルギー補償型γ線用シンチレーションサーベイメータ
TCS-172B(上野、取手／平成24年1月測定分から)
◇平成23年12月測定分までの機器【上野(米RAE社製／DoseRAE2)、取手(中国製／NT6102 RADIOMETER DOSIMETER)】
- 測定者：本学職員(上野、取手)
桐野文良教授【放射線取扱主任者、第一種作業環境測定士(電離放射線関係)】を計量責任者として測定。
- 測定責任者：東京藝術大学安全衛生委員会

【放射線の空間線量率測定結果に対する考え方】

本学では、このたび国が「放射性物質汚染対処特措法」で示した基本方針の数値に則り、1mSvに自然界の大地から放出される年間0.34mSvと宇宙から降り注ぐ年間0.30mSv(いずれの値も日本平均)の放射線量を加え、年間で蓄積される放射線量が1.64mSvを超えないことを安全目標とします。

ちなみに、人が自然界で1年間に受ける自然放射線量は、世界平均で2.4mSvであることから、1.64mSvという数値が妥当なものと確認することができます。

※安全目標とする1年間での蓄積線量1.64mSvという数値を、本学で測定した数値と比較するため、人が1日24時間の生活を屋外で8時間、屋内で16時間、365日(1年)の間過ごし、被ばくしたと仮定して計算すると…

1.64mSv×1,000÷365日÷(8時間+16時間×0.4)=0.312μSv/h(マイクロシーベルト／時間)

◇屋内数値は、屋外数値に、国際原子力機関(IAEA)が示した木造家屋における低減係数の0.4を乗じて算出。

となる。ただし、この数値を超えたとしても、直ちに問題となるわけではなく、評価はあくまで1年間の蓄積量で行うことになります。

台東区のホームページ <http://www.city.taito.lg.jp/index/kurashi/bosai/kinkyujoho/hoshasen/index.html>
取手市のホームページ <http://www.city.toride.ibaraki.jp/index.cfm/8,6963,13,98,html>
東京都のホームページ <http://monitoring.tokyo-eiken.go.jp/monitoring/index.html>
文科省のホームページ http://www.mext.go.jp/a_menu/saigaijohou/index.htm(東日本大震災関連情報)